7期生

津田 美衣子（10期生）　杉江 哲（7期生）（旧姓:沢田）

KUMON（公文）に勤務し、19年目になります。その間、引越し9回（内単身2回）。滋賀、首都圏、大阪を巡回しております。私の転勤にまともに付いてきたら長女は4回小学校を転校していたことになります。その長女も来年には高校生。我が子の進学の心配をする年齢になっていました。今になって子を思う親の気持ちがわかるようにもなりました。年月が経つのが本当に速く感じる、今日この頃です。

私の勤務する会社の魅力は、何と言っても「人の可能性の追求」をすることです。今や45の国と地域に、幼児から高年齢の方々まで多種多様な教育事業を展開しています。私自身も全国各地の教室や新規事業など多くの仲間といっしょに仕事を経験する中で成長することができました。同じ会社に勤める10期生の津田美衣子さんもがんばっています。彼女とは会社の新しいロゴマークを作成するなどブランド構築の仕事を数年一緒にしました。

同じ高校というだけで気安く、本音トークができました。

現在、私の所属している部署は、高校生から社会人を対象にした英語の速読教室（スピード・リーディング）を国内に普及させる仕事をしています。ツールとしての英語を身につけ、グローバルな視野を持つ人材を育成するという壮大なビジョンを持っています。海外にも行きますが、その都度思うのが「このままだと日本がダメになる」「今、本当に必要な教育とは何か」、他に、「日本の食料自給率」、「環境問題」などです。高校のときには、よく学校をサボりましたが、今となってはもっと人生のこと、将来のことを真剣に考え、多岐に亘る勉強をしておけばよかったと反省しております。当然そのつけで、今も苦手であった英語の勉強をしています。最近になり東大津高校の卒業生といろいろな場面で出会います。県内の教室でスタッフをしている方も卒業生が多数おられ、共通する先生の話をしたこともありました。昨年末には車の買い替えでマツダの販売店に行ったところ、店長さんとして高3の時に同級生であった野球部の高田功くんにばったり出会いました。同級生と直接話をすることは20年振りで大変懐かしく大きな感動がありました。もっと多くの同級生や卒業生の近況を知りたいと思うようになり、11月末の同窓会総会にはぜひとも参加したいと思います。私自身高校では目立つ存在ではなく、特定の友人しかいませんでしたが、このような総会や会報などで交流を深め、自分の鋭気にしたいので、同窓会報への投稿と総会へのご参加をお願いいたします。

15期生

15期生　小島 伸彦

母校の印象として、まず最初に思い出すのが、新入生オリエンテーションです。丁寧な頭髪・服装検査、春休みの多くの課題、そして恐ろしい怒鳴り声…。当時、噂こそ聞いていましたが、三年間我慢すれば何とかなると考えていた自分にとって、その時は本当に入学するのをやめようと思いました。しかし、実際に高校生活が始まり、時間が経つにつれて、ユニークで熱心な指導をして下さる先生や多くの友達に恵まれ、いつの間にか学校をやめたいという気持ちもなくなっていきました。三年間いろいろありましたが、お陰様で充実した高校生活を過ごすことができました。

振り返ってみれば、母校には本当に縁があると感じています。自分が教師になりたいと思うようになったのも、母校の先生方の影響でした。大学時代に特に何も就きたい職業がなかった自分に教師としての魅力を教えて下さいました。また、教師となってからも、東大津高校出身ということで声をかけて下さることがよくあります。

教えられる立場から教える立場になった今、生徒と触れ合う時に母校で学んだことを思い出すことがよくあります。母校の先生方がそうであったように、目の前の生徒に誠実である教師を目指し、日々努力しております。

いつかは自分を大きく成長させて下さった母校で、教師として、感謝の気持ちをもって、恩返しをしたいと思っています。今後ともご指導を宜しくお願いします。

（現在は水口高校で教鞭を執られています。）

16期生

「教育実習にて」　16期生 松永 祐子（旧姓 寺田）

私が教育実習のため、11年ぶりに東大津高校へ戻ったのは、立ち止まって自分の道を見直してみたい、そういう時期でした。在学当時の先生は数名しかおられませんでしたが、校舎のにおい、教室の様子などの学校の雰囲気は全く変わっていなくて、高校時代の数々の想い出が一瞬にして私を包み込んでくれました。大好きだった音楽室は、琵琶湖から運ばれてくる風が変わらず吹きぬけていました。長い廊下から広い校庭を眺めて、こうして泣いたこともあったなと、少し苦い記憶も甘くなって想い出されました。

実習が半ばを過ぎたころ、見知らぬ後輩のいる放送部を訪れると、当時のまま時間を経て、壁があちこちほつれてセピア色になった放送室で、部員たちが大歓迎してくれました。アナウンス部門は放送コンテストの全国大会に出場するなど、実力は比べものにならないほどで、「先輩ご指導お願いします」と言われて汗をかきつつ、皆で発声練習をしました。実習の3週間で、東大津高校生の素朴な明るさ、真面目さに何度も触れて、眩しく感じられました。見習いで教壇に立ち、職員室に入って、この東大津高校の生徒たちを守り続け、育て続けてこられた先生方の軌跡を知り、感動しました。

私はその後、大学院に進んで専修教員免許を取得し、現在は、1歳半になる娘の子育てをしながら、非常勤で0～18歳の子ども達の心理判定と就労指導支援などを行っています。私の出会う子ども達は、素朴な明るさを持てるだろうか、それを守れる力が自分にあるだろうかと、未だ道の途中で悩みながら歩んでいます。東大津高校は、当時と変わらない雰囲気で、自分自身を育ててくれた滋賀県の郷土のあたたかさを教えてくれました。また、懐かしい校舎を訪れて、あの東大津高校の空気に包まれたい気持ちになります。